

令和3年度第3回平塚市市民活動推進委員会 議事録

日 時 令和3年11月11日（木）午後2時から午後4時10分まで
場 所 ひらつか市民活動センター 会議室A・B
出席者 石原委員、山田委員、中野委員、市川委員、能勢委員、辻委員、芦沢委員、土井委員、事務局
傍聴者 なし

1 令和3年度の市民活動センター上半期利用状況、事業実施報告

令和3年度の市民活動センターの上半期利用状況とセンター実施事業について説明した。

【委員からの意見・質問等】

- 〈委員長〉：社会福祉協議会との災害ネットワーク構築は、現状報告や情報交換をしているのか。
- 〈事務局〉：社会福祉協議会のボランティアセンターの登録団体とひらつか市民活動センターの登録団体を含めた災害ネットワークを構築できないかと情報交換を重ねている。また、薬剤師会の防災部門も一緒に何かできないかとの話もある。
- 〈委員〉：東海大学生のアウトリーチ活動協力の具体的な活動は。
- 〈事務局〉：東海大学の教授との連携において、学生が市内NPO団体の活動に参加できるようにマッチングしている。ゼミ単位での協力依頼が多く、授業の一環でも参加がある。
- 〈委員〉：東海大学との調整は難しいのではないかと。
- 〈事務局〉：教授との直接的な調整になるので、難しくない。
- 〈委員長〉：各教授からそれぞれ依頼があることは、大変ではないのか。
- 〈事務局〉：大変さはない。各教授と密にコミュニケーションが取れる事や団体活動に学生が携わる事などは非常に望ましいものであると考えている。
- 〈委員〉：一般社団法人ペガサスとの連携で、障がいを持たれた方のインターン受け入れをしているとあるが、具体的にどんな作業をしてもらうのか。
- 〈事務局〉：一般社団法人ペガサスにおいて、パソコン作業を学んでいることもあり、データの集計作業、文書発送作業及び施設内の整理作業などをお願いしている。

2 提案型協働事業の進捗状況

令和3年度実施事業の中間報告、令和4年度実施事業の審査結果と意見について説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員長〉：令和3年度で協働事業が終了する3事業は、コロナの影響を受けた中でも当初の目標を達成できそうか。

〈事務局〉：「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクトでは、妊婦や乳幼児連れの母親を対象とした防災啓発を実施することができているうえ、団体のノウハウを災害対策課職員が引き継ぎ、継続的に実施できる体制を整備できる見込みである。

図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業では、複数名の当事者がボランティア体験を実施していることに加え、ボランティア体験の作業マニュアルを完成させ、当事者の方たちが体験しやすい環境を整備した。協働事業以降も希望した当事者がボランティア体験できる体制を整える見込みである。

平塚市生物多様性保全推進事業では、3年間にわたるフォローアップ調査を順調に進め、今年度、最終的なスケジュール調整を踏まえ、自然環境評価書が完成される見込みである。

〈委員長〉：令和4年度の事業において、NPO法人ぜんしんと農水産課・農業委員会事務局が実施する事業には、課題がありそうだがいかがか。

〈委員〉：審査会では、担当課の熱意が強く感じられたので、課題はあると思うが期待している。

また、令和4年度のいずれの事業も、課題が複雑であり、団体と担当課以外の第三者の協力も必要と見受けられた。

〈委員長〉：事務局がサポートや調整を図っていくものか。

〈事務局〉：事務局は積極的に関わっていく姿勢である。また、NPO法人ぜんしんと農水産課・農業委員会事務局の事業では、ひきこもりの方々が農業従事者になることは、ハードルがすごく高いものであるとの共通理解をしているが、本事業のように新たな試みもしなければ、従事者を増やす手立ても少ないことから、担当課の本事業に対する熱意は相当なものであるので、様子をみつつサポートをしていく予定である。

なお、原段階では、参加する実人数を増やすことや参加者のペースに合わせた実施を心掛けることを伝達している。

〈委員〉：農業従事者が一人、二人でもうまれれば、成功だとも思うが、継続することが重要であると思うので、その後の継続について考えられているのか。

〈事務局〉：NPO法人ぜんしんは、本事業を実施することで、本市と3つの協働事業を実施したことになり、1つ目の青少年課との居場所づくりの事業、2つ目の図書館でのボランティア体験事業を経て、3つ目の本事業で就労、就農するという事業モデルを構築するとのことである。そのため、本事業はNPO法人としての団体活動に組み込まれ、継続を図るとのことであった。

〈委員〉：平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業は、企業への営業活動が難航している様子であった。事務局の方でも協力的になってあげることで、より活

動が上手くいくのではないかと考える。

〈事務局〉：当課も同意見であり、先日、NPO法人フードバンク湘南と打合せを行い、今後の活動についてのヒアリングを実施した。ヒアリング結果を踏まえて当課のできる協力をしていく予定である。なお、当課の対応の一つの結果として、平塚信用金庫とNPO法人フードバンク湘南を繋げることができ、両者での活動が行われる予定である。

〈委員〉：その他、着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施の事業では、既存のプログラムをまとめることはできているが、着地型観光がどういうものであるかが参加者に伝わっていない事業になっているように感じる。

〈委員〉：どのような着地型観光を推進するものであるかが、方針として見えてこない。事業の3年目でもあるので、積み上げてきたものを観光協会などに繋げてほしいが、方針等が整理されていないとそれも難しいと考える。

〈事務局〉：行政提案型でもあるので、担当課の思いから始まっていますので、商業観光課にも本日の内容を含め、よりよい事業になるよう調整していく。

3 第3回平塚市みんなのまちづくり事例表彰の選考（非公開）

第3回平塚市みんなのまちづくり事例の選考を行い、10事例の年間大賞を決定した。

閉会